

留学報告書

2016年10・11月の2ヶ月間、大学の若手医師等海外派遣事業で台湾の長庚紀念醫院に短期留学させていただきました。

関堂充教授をはじめとした形成外科のスタッフの皆様、ならびにお世話になった国際連携室の皆様に感謝申し上げます。

■台湾

台湾は人口2300万人、面積は九州と同程度です。気候は湿気が多いためか気温以上に暖かく感じました。11月上旬まではTシャツ1枚で十分でした。ただ天気の移り変わりが激しく、折り畳み傘は必須でした。

言語は中国語（北京語）が公用語です。英語は観光客の多い場所では通じますが、それ以外では通じないことが多いです。病院内では医師は英語を話せませんが、看護師は話せる人もいるといった具合でした。

治安は非常によく、夜間歩いても特に問題はありませんでした。

■ Linkou Chung Gung Memorial Hospital

1976年に台北にでき、その後林口・基隆・高雄、桃園、嘉義、雲林という分院を増やしました。今回の留学先である林口はその中でも最大規模の病院で、病床数は3700を超えています。形成外科は症例数が多く、数多くの論文も出している施設です。

台北市内からは少し離れていますが、シャトルバスが市内まで10分間隔で出ており40分程度で市内へ行くことが可能です。

また、近々台北市内-病院-空港を連結する地下鉄も建設予定になっています。

院内に寮（4人相部屋のドミトリー）があり、無料で提供されました。

■手術

手術室は70部屋近くあり、はじめのうちはよく迷子になりました。形成外科の手術は月曜日から金曜日まで基本3列で顕微鏡再建手術が行われており、多いときは5列で行っている日もありました。手術は大きく分けて頭頸部再建・乳房再建・リンパ節浮腫・顔面神経麻痺・腕神経叢再建が行われていました。

大まかな手術の流れはもちろん同じですが、皮弁の採取の仕方・吻合血管の選

扱・吻合法など随所に違う点がみられ、いくつか取り入れようと思うものもありました。

基本的に朝から晩まで手術室で見学していました。いくつかの手術が並列で行われているので、いいところ取りをするような感じで自由に部屋を行き来していました。スタッフ・フェローとも話しますが、見学者が常に10名以上いたので見学者同士で色々と話すことが多かったです。

■ 外来

週1回金曜日は台北長庚紀念醫院で Fu-Chan Wei の外来見学を行いました。3ブース全て使用し、学生・フェロー・レジデントが診察後に上級医と診察を行っていました。Fu-Chan Wei は全ての患者さんの顔を見て言葉を交わし、適宜ボディタッチを行いながら診察をする様子は日本では見られないものでした。教育にも力を入れており、我々見学者にも適宜手術画像を見せながら説明していただきました。

■ Taouyan Chung Gung Memorial Hospital

林口からシャトルバスで10分ほどの距離にある桃園長庚紀念醫院も1週間見学させていただきました。ここは頭蓋顎顔面再建/小耳症センターとなっており、年間で顔面・下顎の骨切り、口唇口蓋裂、小耳症などの手術を年間800件以上行っています。筑波大学では年間に2-3例しか見ることのできない小耳症の手術を1週間で3症例見学することができました。手術法も日本とは異なりMEDPORという人工骨を用いたもので、新鮮に見学することができました。

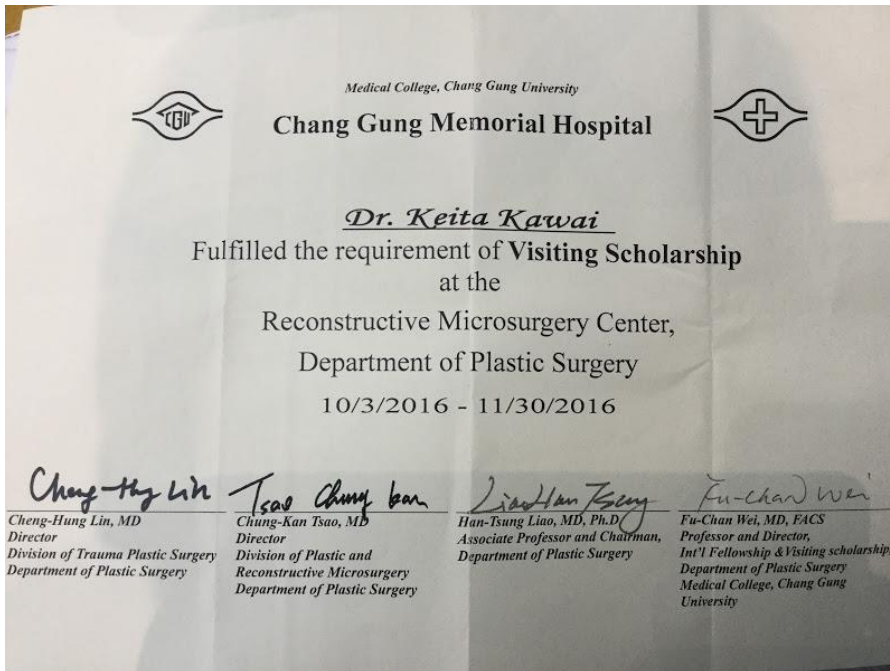
■ 最後に

2ヶ月間と短い期間でしたが、貴重な体験をさせていただきました。食事も美味しく物価も安いので観光でも人気の台湾ですが、留学先としてもおすすめします。

形成外科 川井啓太



足趾移植



修了証明書